

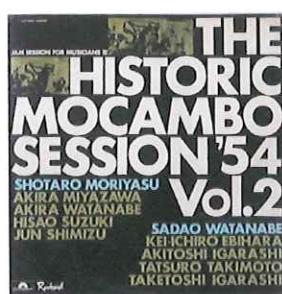
令和元年10月26日

KJFC 例会

『(私的)戦後、和ジャズの略歴史』

担当：紅 我蘭堂

【戦後黎明期】



幻のモカンボ・セッション '54 Vol. 2/守安祥太郎 他

(POLYDOR←ROCKWELL)

守安祥太郎(p)、渡辺 明(as)、渡辺貞夫(as)、宮沢 昭(ts)、鈴木寿夫(b)、五十嵐武要(ds) ※1)の演奏者のみ 1954年7月27日、28日録音

SIDE A 1) ON A SLOW BOAT TO SHINA 2) EVERYTHING HAPPENS TO ME 3) STEEPLE

CHASE

SIDE B 1) PERDIDO

1953年11月のJ.A.T.P.東京コンサートは現在CDでも聴けます。心ある日本のジャズメン(ウーマン)なら、かなりの刺激を受けたことでしょう。

それにもしても守安祥太郎以下の、当時最新流行だっただろうビ・バップ演奏は迫力があつて見事です。アメリカではアート・ブレイキーが『BIRD LAND』(Blue Note)のライブ録音を、マイルス・デイビスが『WALKIN'』(Prestige)などを吹き込んで、ハードバップが盛り上がりつつあった同じ年にです。まさに「蘭学事始」ではなく「モダンジャズ事始」。



新・鈴懸の径/鈴木章治(RCA RVJ-6075) 1957年

鈴木章治(cl)、松崎竜生(vib)、鈴木敏夫(p)、潮先郁男(g)、小林陽一(b)、原田イサム(ds)、鈴木正男(cl) ※1)の演奏者のみ 1979年10月15日録音

SIDE A 1) 鈴懸の径 2) THERE'LL NEVER BE ANOTHER YOU 3) THE MAN I LOVE

4) MENINA MOCA 5) THE WAY YOU LOOK TONIGHT

SIDE B 1) SOFTLY AS IN A MORNING SUNRISE 2) GEORGIA ON MY MIND 3) MOONGLOW

4) SHINY STOCKINGS 5) I SURRENDER, DEAR

勿論例外はありますがジャズメンという人種は嫉妬深い人が多いと聞いています。またジャズファンもヒット曲にたいしてはつい批判的なことを言ってみたいという人がいます。自分をにわか評論家的に見せる為に。私はこの曲を聴くと、当然1957年のブームの時は知らないですが懐かしい気分になります。40数年前でしょうか、夏の信州戸隠の国道脇のヒュッテとも呼べない茶店で美味しい空気に包まれてビール片手に蕎麦を手練っていたときのBGMが、あまりにもハマリすぎていて「白樺の高原のおセンチさん」になった時を思い起こしてくれます。



トシコ旧友に会う/穂吉敏子 (KING SKK-3018)

穂吉敏子(p)、渡辺貞夫(as)、宮沢 昭(ts)、原田政長(b)、富樫雅彦(ds)

※1)の演奏者のみ 1961年3月7日、8日、27日録音

SIDE A 1) SO WHAT 2) THE NIGHT HAS A THOUSAND EYES 3) DONNA LEE

SIDE B 1) QUEBEC 2) OLD PALS 3) WATASU NO BIETHOVIN

詳しい話は分かりません。穂吉敏子さんが1953年J.A.T.P.で来日したオスカーピーターソンの楽屋に単身乗り込んで、渡米の直談判をしたと聞いています。あたかも幕末にアメリカに密航しようとした志士たちのように情熱ある行動でした。



LOVE ! / 美空ひばり (日本コロムビア) 美空ひばり (vo)

STAR DUST ※「ひばりジャズを歌う～ナット・キング・コールをしのんで」

1965年録音より

50年代から60年代、日本の歌手はポップスだジャズだ演歌だという評論家的なジャンル分けはなかったようです。「テネシーワルツ」といえば江利チエミさん、なんて今でも語り継がれています。しかし、あの美空ひばりさんがナット・キング・コールを唄んでジャズ歌曲ばかりのLPレコードを制作したとは驚きです。

【60年代から70年代】

渡辺貞夫、日野皓正などの人気上昇とともに、ジャズブーム。外国人プレイヤーと5分に渡り合える人が登場。日本コロムビア(TACTレーベル)、キングレコード、CBSソニー、日本ピクター、日本クラウンなど当時の大手レコード会社からジャズレコードが発売されていました。

また日本人女性美人シンガーが続出して人気上がり、いわゆるおじ様族が夢中になってライブなどに押し掛けたと聞いています。

外国からのプレイヤー来日ラッシュで、それに追随する形で国内プレイヤーも増える。

(70年代)

この時代、重要な国内レーベルであるTBM(スリー・ブラインド・マウス)を中心に、無名のベテラン、若手が発掘されました。また東京と地方の距離が縮まったと思います。

正直に言ってTBMのレコードの中には、私の感性の尺度で“ジャズ”とは言い難いレコードもありますが、とにかくプロデューサーである藤井 武氏が自信を持って“ジャズ”としてリリースしたのだから逆らうことはできません。その功績はアメリカのBLUE NOTEレーベルのアルフレッド・ライオン氏に匹敵するでしょう。大袈裟な表現やヨイショではないです。現在でもTBMのレコードたちは燐然と輝いています。



LOVE IS A MANY SPLENDORED THING/菅野邦彦 (TBM-26)

菅野邦彦(p)、小林陽一(b)、高田光比古(ds)、小川庸一(conga)

1974年3月22日録音

SIDE A 1) LOVE IS A MANY SPLENDORED THINGS 2) AUTUMN LEAVES 3) BLUES FOR WYNTON KELLY

SIDE B 1) PERDIDO

T B Mが残した記録の中には、とんでもない鬼才(奇才)が隠れ住んでいます。



BLUES FOR POWELL/藤井英一 (日本コロムビア YX-7517MD)

藤井英一(p)、稻葉国光(b)、清水 潤(ds) 1977年8月17日19日録音

SIDE A 1) CLEOPATRA'S DREAM 2) ALL GOD'S CHILDREN GOT RHYTHM 3) CHEROKEE

4) SHAWNUFF

SIDE B 1) STRIKE UP THE BAND 2) ON A SLOW BOAT TO CHINA 3) BODY AND SOUL

4) BLUES FOR POWELL

ひとりの偉大なピアニストの足跡を辿ったプレイヤーを1枚。バド・パウエルを追及した、男の生き様。70年代にはこのような日本人もいました。



HUSH-A-BYE/森山威男 (UNIONN《ティチク》GU-5008)

森山威男(ds)、小田切一巳(ts)、板橋文夫(p)、望月英明(b) ※演奏者のみ

1978年2月27日録音

SIDE A 1) SUNRISE 2) HUSH-A-BYE 3) NORTH WIND

SIDE B 1) LOVER MAN 2) SNOW TIGER

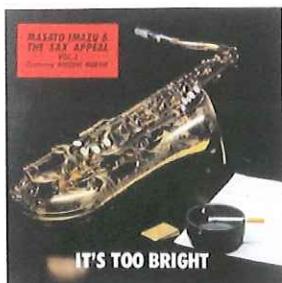
山下洋輔(p)とともに前衛的な表現を残した森山さんですが本来の姿は、この曲のような演奏ではないでしょうか。

(80年代)

キングレコードという会社は面白い会社です。言い方を間違えました・・・当時の国内8大レコード会社が次々と邦人ジャズレコード制作から撤退していく中で、PADILLE WHO I LIEというブランドで頑張ってくれました。そして、その活動は若手育成という歴史に名を刻みました。

バブル景気に乗って、海外留学プレイヤー増え、また帰国組を優遇したキングレコードの功績は大きいです。ジャズ維新、新撰組ほか大坂昌彦(ds)など若手のレコーディングCDを続々発売。今回は掛けられませんがキングレコードのレコードナンバー「K I C J」で始まるCDシリーズはぜひ記憶に残してください。次に機会があれば、このK I C Jシリーズなどのレーベル特集をやります。

メディアがLPからCD時代に移行して制作費がLPレコードより格安になったため、様々なマイナー・カンパニー会社ができました。バブル景気に乗って、新しいプレイヤーが続々登場しました。そしてその若手たちは自費出版という形でも、自分たちの表現を残しました。



MASATO IMAZU THE SAX APPEAL Vol. 3/今津雅仁 (WILLFUL RECORD MI-32215)

今津雅仁(ts)、村田 浩(tp)、吉岡秀晃(p)、沼上 励(b)、屋代邦義(ds)

1988年3月15日16日録音

SIDE A 1) IT'S TOO BRIGHT 2) I'M NOT A KITTY CAT 3) FOSTER'S CHICKEN

SIDE B 1) STRAIGHT BLUES AHEAD 2) GIPSY NIGHT 3) PIECE OF CHANGE

海外プレイヤーと共演できるプレイヤーも出てきました。

BACK TO THE WOOD/大森 明 (日本コロムビア《DENON 30CY-1379》)



大森 明(as)、RAY BRYANT(p)、鈴木良雄(b)、大塚義之(ds)

1986年10月8日9日録音

1) BACK TO THE WOOD 2) THE OLD COUNTRY 3) SNEAKIN' AROUND 4) DONNA LEE

5) GOOD MORNING HEARTCHE 6) MIDNIGHT PRELUDE 7) JUNE WALK 8) JULIAN

凄いですよね。ピアノはレイ・ブライアントです。

海外を拠点にして演奏するプレイヤーもいます、

SONG FOR HOPE/高瀬アキ (ENJA-4012)



高瀬アキ(p)、井野信義(b)、森山威男(ds)

1981年11月5日ベルリン・ジャズ・フェスティバルにて

SIDE A 1) MONOLOGUE 2) SONG FOR HOPE

SIDE B 1) MINERVA'S OWL 2) MOUNTAIN FOREST

海外から逆輸入という表現があつていいのか? 最近の演奏を聴いていないので申し訳ありませんが、この当時の高瀬アキさんの前衛的な表現は、私の好みではありませんでした。ただこのアルバムそしてこの曲は日本人の琴線を刺激するものと感じました。

女性ヴォーカルも凄いことになってきました。

SUMMERTIME/沖山秀子 (VIVID VSCD-308) 原盤 トリオ・レコード



沖山秀子(vo)、渋谷 豪(p)、川端民生(b)、亀山賢一(ds)、宮沢 昭(ts, f1)、

粉川忠範(tb)、中牟礼貞則(g)、潮先郁男(g) 1981年8月8日9日12日録音

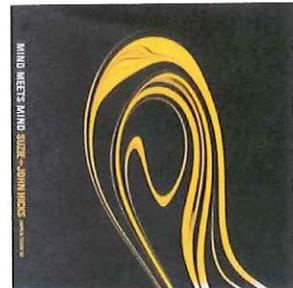
1) I'M A FOOL TO WANT YOU 2) BYE BYE BLACKBIRD 3) AS TIME GOES BY 4) ALL

OF ME 5) BEWICHED 6) THEMAN I LOVE 7) BODY AND SOUL 8) THESE FOOLISH

THINGS 9) GOOD LIFE 10) SUMMERTIME

沖山秀子さんは、問題ばかり起こす女優というイメージがありましたが、「えっ!!」と驚きました。

SUSIE+JOHN HICKS QURTET/黒岩静枝 (BEYOND BRJ-003)



黒岩静枝(vo)、JOHN HICKS(p)、BOBBY WATSON(as)、CURTIS LUNDY(b)、IDRIS

MUHAMMAD(ds) 1997年9月13日 札幌グランドホテル

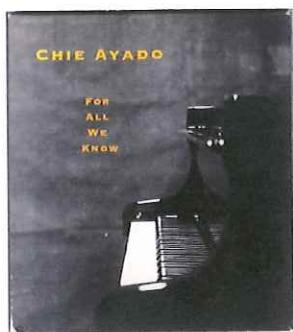
1) ANGEL EYES 2) THE BOY FROM IPANEMA 3) BUT NOT FOR ME 4) TRY A LITTLE

TENDERNESS 5) AVOPJIA 6) DEDICATION 7) I WANNA BE HAPPY 8) HE'S FUNNY

THAT WAY 9) SOMETIMES I'M HAPPY 10) LOVE ME TENDER 11) BLOWING IN THE

WIND

黒岩さんは北海道在住で、いわゆる『幻の名ヴォーカリスト』と呼ばれていました。このCDは名古屋からKJFCに何かとご援助いただいた故・中川清宏さんから寄贈されたものです。10年以上前に横浜のライブに数人の方と聴きに行ったことを思い出します。



FOR ALL WE KNOW/綾戸智恵(EAST WORKS ENTERTAINMENT EWCD-0005)

綾戸智恵(vo, p)、益田幹夫(p, organ)、鈴木良雄(b)、岡田 勉(b)、日野元彦(ds)、秋山一将(g) 1998年4月14日15日16日録音

1) I ONLY HAVE EYES FOR YOU 2) I CAN'T STOP LOVING YOU 3) GUESS WHO I SAW TODAY 4) JUST ONE OF THOSE THINGS 5) BRIDGE OVER TROUBLED WATER 6) ANGEL EYES 7) HALLELUJAH. I LOVE HIM SO 8) ONE FOR MY BABY 9) OLEO 10) IN A MELLOW TONE 11) WHAT ARE YOU DOING THE REST OF YOUR LIFE 12) I LOVE BEING HERE WITH YOU 13) WHENSUNNY GETS BLUE 14) FOR ALL WE KNOW

2015年に惜しくも倒産してしまったらしいイースト・ワークス・エンタテインメント(以下EWE社)の専務と10年以上前にお話しする機会がありました。その時専務は「うちは綾戸智恵のマネジメント事務所のようなものですから…」と自虐的にお話されていましたが何の何の残した功績は偉大です。特にこのEWDCDシリーズは新人に初リーダー・アルバムの機会を与えただけでなく、鈴木良雄さん(b)や日野元彦さん(ds)たちベテランにも好盤を残す機会を作りました。

80年代は、もうバークリーだジュリアードだとアメリカの音楽院に留学して帰国するプレイヤーが輩出して珍しくなくなりました。彼らは臆することなく海外プレイヤーと共に演しています。また録音を後押しするレコード会社も存在しました。このアルファ・ジャズは村井邦彦氏が立ち上げたアルファ・レコードのジャズ部門ですが、中にはこの2枚のような好盤を残してくれました。



SOMETHING LIKE THIS/松島啓之 (ALFA JAZZ ALCB-3052)

松島啓之(tp)、DON BRADEN(ts)、ROB BARGAD(p)、IRA COLEMAN(b)、BILLY DRUMMOND(ds) 1994年10月31日、11月1日録音

1) BYE BYE BLACKBIRD 2) WITHOUT A SONG 3) BAKIN' & SCRAPIN' 4) I'LL KEEP ON LOVING YOU 5) SOMETHING LIKE THIS 6) K.G.B. ~ ANOTHER BROADWAY 7) ALONE TOGETHER 8) MORGAN THE PIRATE 9) C.T.A. 10) P.S. I LOVE YOU

日本のトランペッターは層が薄い。何故だろうか? 演奏者は多いのだろうけど残念ながらCDが出ていない。他のサックス・プレイヤーやピアニストに比べて悲しいくらいだ。この松島啓之(けいじ)のCDを聴いたときは、久しぶりに元気な若手が出現したなど感じました



IN THE PLEASANT SHADE/山田 穂 (ALFA JAZZ ALCB-3937)

山田 穂(as)、CYRUS CHESTNUT(p)、GEORGE MRAZ(b)、BILLY DRUMMOND(ds)

1998年9月8日9日録音

1) CARVIN THE WOOD 2) TATER TOT 3) THE VERY THOUGHT OF YOU 4) RHYYHM-ADING 5) THREE LIGHTS WITH BEAUTIFUL WISDOM 6) IN YOUR OWN SWEET WAY 7) I SEE YOUR FACE BEFORE ME 8) A LITTLE PRAYER 9) RELAXIN' AT CAMARILLO 10) STARS FELL ON ALABAMA

この錚々たるリズム・セクションの名前を聞いただけでも、大概のプレイヤーはブルってしまうでしょうが、穂は立派に渡り合っています。さらにオリジナル曲も提供しています。

【90年代から2000年代】



WOW/大西順子 (SOMETHIN' ELES 東芝EMI TOCJ-5547)

大西順子(p)、嶋 友行(b)、原 大力(ds) 1992年9月3日4日5日録音

1) THE JUNGULAR 2) ROCKIN' IN RHYTHM 3) B-RUSH 4) PROSPECT PARK WEST
5) POINT-COUNTER-POINT 6) BRILLIANT CORNERS 7) NATURE BOY 8) BROADWAY
BLUES

最初に聴いた時は新進気鋭の男性ピアニストが出現したと思いました。

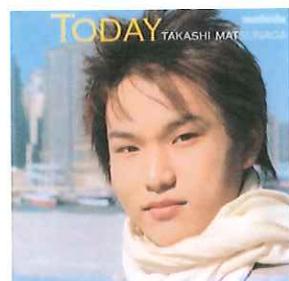


THE TRIO/山口 武 (NOMMO RECORDS NR-17992)

山口 武(g)、RON CARTER(b)、LEWIS NASH(ds) 1999年録音

1) MANHA DE CARNAVAL 2) FALLING LOVE WITH LOVE 3) MOJITO 4) TENNESSEE
WALTZ 5) 117SPECIAL 6) SPAIN 7) THERE'LL NEVER BE ANOTHER YOU 8) BLUES
FOR D.P.

私は聴くことができませんでしたが「ジャズ・カントリー」でライブを行った山口さんです。失礼な言い方ですが地方を中心に活動されている方が、この凄いメンバーとCDを作るなんて時代の移り変わりを感じました。これもKJFCにゆかりある故・中川清宏さんから教えていただき、寄贈されたCDです。



TODAY/松永貴志 (東芝EMI «SOMETHIN' ELSE» TOCJ-68063)

松永貴志(p)、UGONN OKEGWOA(b)、ERIC HARLAND(ds)

2004年2月15日16日録音 ※演奏者のみ

1) METAL DRAGON 2) SUNSET IN THE CITY 3) SING, SING, SING 4) HOMEWORK
5) OPEN MIND 6) NYA-NYA-DANCE 7) PEACE 8) HAMBURGERING 9) JIVE AT FIVE
10) OPEN MIND (SAX VERSION)

2000年代に入ると10歳代や20歳代前半の若手が続出しました。この松永君もそうですが、ざっとあげると矢野沙織as、山中千尋p、上原ひろみpなどなどがCDデビューをはたしています。

【ジャズファンが支えた和ジャズ】



MY PICCOLO/宮沢 昭 (日本フォノグラム 28PJ-1003) 1981年

宮沢 昭(ts)、佐藤允彦(p)、井野信義(b)、日野元彦(ds)

1981年3月21日録音

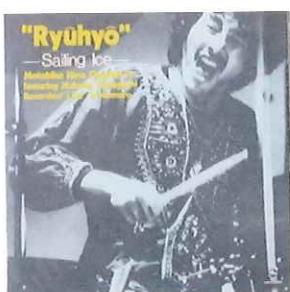
SIDE A 1)AFTER THE STORM 2)KING SALMON 3)BLUE LAKE 4)CAT FISH

SIDE B 1)DOCTOR U 2)MY PICCOLO 3)DANDY FISHERMAN

このレコードを聴くたびに、日本のジャズはコアなファンに支えられていることを実感します。最近加齢のせいで涙腺がゆるくなっている小生はついほろりとしてしまいます。

とにかく1970年代は一部のジャズメンを除いて食えない時代だったようです。あの松本英彦(テナーサックス)さんや宮沢 昭さんのような方々もジャズだけでは家族の生活を支えきれなくて、キャバレーでのダンス音楽演奏や演歌歌手のステージで糊口をしのいでいたと聞きます。

このレコードは愛知県岡崎市在住だったドクター内田 修先生以下名古屋ヤマハ・ジャズ・クラブの方々の尽力でできました。特に2曲目の日野元彦さんの迫力あるドラムスに注目していただければ。



流氷/日野元彦 (TBM 《日本フォノグラム 15PJ-1029》) 1976年

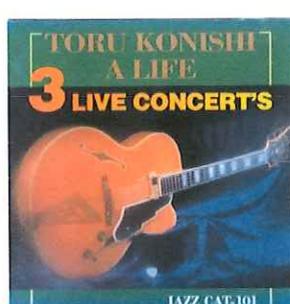
日野元彦(ds)、山口真文(ts)、清水靖晃(as)、渡辺香津美(g)、井野信義(b)

1976年2月7日録音

SIDE A 1)流氷 RYUHYO～SAILING ICE 2)SOUL TRANE

SIDE B 1)NEW MOON

その日野さんのライブです。北海道の根室・ホット・ジャズ・クラブが実現した根室市民会館でのライブ録音。ライナーノーツによると当時の根室は札幌から自動車で1日かかりだったそうです。そんな僻地(失礼!)に呼ぶ方も呼ぶ方だけど、行く方も行く方です。でもそれがジャズですよね。ファンの熱気に応えるTOKOさんのスタイルが燃えています。



A LIFE/小西 徹 (JAZZCAT 101) 1979年

小西 徹(g)、伊藤 潮(b)、岩本龍夫(ds) 演奏者のみ

1979年9月26日、1980年12月2日、1997年9月25日録音

1)COTTON TAIL 2)GOLDEN EARRINGS 3)AUTUMN LEAVES 4)SOFT WINDS

5)bLACK LEAVES 6)ALONE TOGETHER 7)CONCIERTO DE ARANJUEZ

[ジャズメンが食えなかった話し ①]

松本英彦さんや宮沢 昭さんがジャズだけでは食えずに歌手の伴奏をしていたと書いた。証拠がある。今度あなたがカラオケ屋に行ったら、越路吹雪さんの“ラストダンスは私を”を歌わなくて良いから「本人バージョン」という奴でリクエストしてくれ。間奏の時に華麗な吹雪さんの横で、懸命にほっぺたを膨らませてテナーサックスを吹いている人の映像を見たら、心あるジャズファンなら絶対に涙する。

[ジャズメンが食えなかつた話し ②]

小西 徹さんも食えなかつた。当時放映されていた「木島則男モーニングショー」などのバックに出演したりしていた。その時、某大物歌手のバック演奏の専属契約という話が舞い込んできた。コンサートでも演奏ツアーでも大きなギャラが約束されていたらしい。保険の外交員として家計を支えてきた奥様の喜ぶましいことか。ちょうどお子様の教育費などにお金が掛かる時期だった。しかし徹さんは「自分の仕事ではない」と一蹴されたという。奥様は落胆されたが、それからも懸命に保険を売って歩かれて、お嬢様を立派なクラシック音楽家に育て上げられた。そして外交の疲れを癒すために立ち寄られた日本橋茅場町の洋菓子喫茶「九谷」が、K J F Cと徹さんとの運命的な出会いとなった。

(備考)

戦前のことについては、色川武大(阿佐田哲也)先生の名著『唄えば天国ジャズソング』をご参照ください。



軽薄、無思想、無道徳、僕のいとい恋の唄

「あきれたばういづ」から二村定一、ファックスイーラーをしてフレッド・アステアへ。著者唯一、至福の音楽エッセイ。

著者 文庫 定価300円+税(500円)

御清聴ありがとうございました。

年	国内外のジャズ的な動き	外的要因
1945年～	進駐軍キャンプ回りの演奏活動	太平洋戦争敗戦 朝鮮戦争勃発。特需景気始まる
1950年		
1952年	テネシーワルツ/江利チエミ 大ヒット	
1953年11月	J. A. T. P. 来日	
1954年	モカンボ・セッション録音	
1955年	チャーリー・パーカー死去	
1956年	穂吉敏子 渡米。クリフォード・ブラウン死去。	
1957年	鈴懸の径/鈴木章治 大ヒット	
1964年		東京オリンピック。好景気(いざなぎ景気)始まる。 1970年頃まで。
1967年	ジョン・コルトレーン死去。	
1970年	藤井 武氏他によりTBM(スリー・ブラインド・マウス)設立。2004年まで約130枚を制作。(2014年破産手続き)	70年安保。学生運動。 大阪万博。
1971年	ウェザー・リポート/ウェザー・リポートにより衝撃走る	ドルショック。景気後退。
1972年	リターン・トゥ・フォーエバー/チック・コリア大ヒット。 フェュージョンブーム到来	
1973年		第1次オイルショック
1974年	キース・ジャレットによるソロ・ピアノブーム到来	
1975年	KJFC(九谷ジャズ・ファン・クラブ)第1回レコードコンサート開催。	
1978年	渡辺貞夫「カリフォルニア・シャワー」発売。ヒットする。	第2次オイルショック
1980年～	国内ジャズ喫茶の閉店・廃業始まる。	
1982年	CDプレイヤーとCDソフトの発売開始!! ウイントン・マルサリス初リーダー・アルバム発売。エレクトリック・ジャズからアコースティック・ジャズへの回帰始まったか?	
1985年		バブル経済始まる。
1988年	アルファ・レコードがアルファ・ジャズ・レーベル設立。 松島啓之(けいじ)tp、山田穣asなどのCDをリリース。1998年撤退。	
1991年		バブル経済終焉(崩壊)
1993年	キングレコードが若手を集めた『日本ジャズ維新ジャム』録音。小林陽一ds、原朋直tp、中川英二郎tb、多田誠司as、岡安芳明g、クリヤ・マコトpなどの若手のCDを続々と発売。	
1995年	EWE(イースト・ワークス・エンタテインメント)からEWCDシリーズ発売開始。約200タイトルをリリース。2015年倒産。	阪神淡路大震災
1997年		山一證券、 北海道拓殖銀行破綻
1998年	WHAT'S NEW RECORDS創立。リリース開始(現在まで)。中山英二b、安保徹ts、太田寛二p、斎藤真理子p、吉田桂一p、Q・いしかわtsなど	